

# 会 議 記 録

政策企画局 まちづくり協働課

開催日	平成 22 年 7 月 29 日(木)	開催時刻	13 時 30 分から 16 時 00 分
会議名	上田中央地域協議会(平成 22 年度第 4 回)		
出席者	<p>小林会長、宮本副会長、浅井委員、河田委員、神林委員、久保田委員、栗内委員、佐藤浩委員、佐藤智恵子委員、塩入委員、中村委員、松澤委員、宮坂委員、宮島委員、村上委員、安井委員、山田委員、渡邊委員</p> <p>(欠席委員) 飯島委員、伊藤委員</p> <p>(事務局) 足立まちづくり協働課地域振興政策幹、小宮山まちづくり協働課長 林まちづくり協働課課長補佐、堀内まちづくり協働課主査</p> <p>(説明者) 師川健康推進課長、翠川産院建設準備室長、中部文化振興課長、中村学校教育課長、宮沢生活環境課長、田中廃棄物対策課長、甲田農政課長、池田産院建設準備係長、児玉都市計画課景観係長</p>		
会議次第	<p>1 開会(足立まちづくり協働課地域振興政策幹)</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>先月の定例会において、上田市産院の移転新築事業について産院建設準備室長からご説明を受けた。私自身が十分な理解を得ないままに消化不良となってしまった感じを持った。理由は、今回産院を建設する場所が、国立長野病院の隣接地に建設することから、産院と長野病院との連携についてお聞きできなかったからであります。長野病院は、当市を代表する総合病院で、ここでの対応次第で市民の安全・安心と信頼を生んでいくという大切な病院である。その点について、本日、市の医療再生計画等も含めてお聞かせいただく。長野病院は中央地域協議会の管内にあり、市民として長野病院を見守り盛り立てていかなければならない立場にある。そういう観点から考えて、一般的な風評などに流されることのないように、また、是は是、非は非として正すべきところは正していかなくてはいけないと思う。今後どうするかはこれからの課題だ。ぜひ皆様方にも産院と合わせて、地域の中核病院である長野病院の再生をどのようにしたらいいか、お力沿いをいただきたい。</p> <p>3 会議事項</p> <p>(1) 産院移転新築事業と地域医療再生計画について</p> <p>資料「上小医療圏における地域医療再生のための事業体系」</p> <p style="text-align: right;">より健康推進課から説明</p>		

**【主な質疑】**

会長：長野病院が地域第一の病院であり、それと連携をしていく産院も安心できるように確立されていけば、市民の期待も盛り上がる。出来れば長野病院の先生方、産院のご担当の方々とも話し合いをして、理解を深め、市民に対しても情報の提供が出来るように思っている。健康推進課から長野病院等の内容、行政としてどう取り組んでいくかということについてお聞きし、すでに動き始めていることも伺った。是非、委員の皆さん方もご理解をいただいて少しでもこの地域の医療が強化されるような方向で、ご協力をお願いしたい。

委員：医療事故があっては命を預けるのに不安になり、医療を受ける側として医師と信頼関係を築くのは難しいと思う。長野病院では、事故を防ぐための委員会のようなものはあるのか。

また、基金の中から、信州大学付属病院に研究費の助成を行うというが、基金は平成 25 年度までしかなく、その後の助成はどうなるのか。

担当課：医療事故を防ぐための取り組みだが、病院の規模でそのような委員会は無くてはならない。「ヒヤリ・ハット事例」についても、看護スタッフも含めてそのような取り組みはされているとお聞きしている。

基金については、基本的に 5 年間の助成が過ぎても、継続可能なものを計画するようにという取り決めがある。そのまますべて継続ということではないが、地域医療教育センターという長野病院に先生方が来るしくみについて、広域連合単位の市町村が成果を踏まえながら出来るだけ支援をしていくという協定が、今年 3 月に成されている。国が行っている施策が効果を上げてくるのには、少なくとも 10 年かかる。そこまでは、つなげていきたい。

会長：世間の風評その他に乗せられている部分もある。必要があれば病院長にお願いして懇談会を持ちたいと思う。良くしていこうという事を考えなくてはいけない。先生方が期待されているという思いの中で、少しでも前進していこうと思っていただければ、市民にとってもプラスになると思う。その方向でご理解をいただきたいと思う。

(2) 昨年度提出の意見書の回答について

北国街道を保全活用したまちづくりに関する提言

意見書の内容、回答書の内容について、事務局より説明

**【提言】**

- (1) 北国街道沿いの歴史的資源についての学術調査と評価の実施
- (2) 歴史的資源保全のための市独自の新たな制度の制定
- (3) 学校教育での北国街道に関する学習の推進

#### (4) 市民が主体となり行政が支援するまちづくりの推進

会長：2期目の提言として2月2日に市長宛に提出した提言書の正式な回答になる。これから成り行きを見守っていききたい。3期目の委員の皆さんにもご理解をいただきたい。

文化振興課長：北国街道沿いの具体的な調査は行っていないので、基礎的な調査を行い、さらに必要なものについて、学術調査なり専門的な見地から専門家の調査をさせていきたい。

会長：私たちは、実際にここの現場を見ながら、確認をしながら調査してきた。さらに専門的な方々を入れて検証する中で、行政側からも考えていただける。よろしくお願ひしたい。

#### 生ごみ資源化と活用に関する提言

意見書の内容、回答書の内容について、事務局より説明

##### 【提言】

- (1) 堆肥化施設の設置主体と役割分担の明確化について
- (2) 家庭系単独での堆肥化と無償活用について
- (3) 市民参加・参画の仕組みづくりについて
- (4) 生ごみ堆肥化機器等への支援制度の見直しについて
- (5) 新たな支援制度の創設について
- (6) 地域振興を視点とした耕作放棄農地等の利活用について

会長：生ごみの提言については第2期の第2分科会リーダーにコメントをお願いしたい。

委員：回答書をありがとうございます。1年以上かけて作った提言書の内容を思い、少し少ない回答に寂しい思いもする。行政の今までの考え方・姿勢は崩されていないようにも感じるが、もう少し具体的に示していただけたらありがたかった。生ごみの堆肥化に対する考え方にギャップがあった。今後、これで終わりということではなく、担当の方とお話をさせていただけたらありがたい。

生活環境課長：皆さんのご提言の内容はもっともだと思う。生ごみの堆肥化は緊急の課題であると認識している。かなり積極的なお話だ。市民の皆さんに協力していただきたい。堆肥のことにってはだいぶ研究してきたが、家庭から出る生ごみには季節変動などがある為、安定したものが出来にくい。地域でしっかり循環させるということが大事だと思う。

会長：中央地域協議会は5つの地区連の会長がこの協議会に所属している。自治連を通じて、市民の皆さんに直接的なご意見を記入していただいたアンケートを回収し

ていただいた。今まで市でも経験の無いようなデータを取得することが出来た。

まちづくり協働課長：提言をいただいた後に庁内の担当係長レベルで、会議を持った。問題点や課題点を話し合った。以前から北国街道を保全していく必要性は感じていたが、解決案がまとめられていなかった。今日はひとまず回答をいただいたので、これからも連携を図りながら進めていきたい。

会長：行政サイドから出た回答はそれぞれのお立場でいただいたものなので、時期の問題はズレるかもしれないが、実現の方向で行くことは紛れも無い事実なので、そのように期待をしていただきたい。2期目の地域協議会で提出した意見書の回答を、今日は3期目の皆様に聞いていただいた。継続審議でもあるので、ご理解をお願いしたい。

### (3) 上田市行政改革推進委員会からの提言書について

資料：「『教育委員会事務局体制の改革』提言書～行政の一元化に向けて～」より  
事務局から説明

#### 【主な質疑等】

会長：前回の6月にも説明を聞かせていただいたが、地域協議会として回答しなければならないことはあるのか。

事務局：現在はこのような提言があったということのみだ。

委員：これはあくまで提言書なので、このようになるということではない。公民館は自治会が他の団体等と、ひとつの地域コミュニティの形で運営していく方法もある。公民館も含め、あらゆる団体が合併していく方向に進みつつある。問題は、教育委員会のスタッフが少なく、扱っている範囲が広すぎることだ。これを少し移行し、もう少し充実した活動をしていただきたいということから始まったことなので、ご理解をいただきたい。

会長：私も中央公民館で開かれた説明会に参画をさせていただいた。公民館の存在をなくしてしまうというように誤解されている発言が多かったと思う。

事務局：今回は市長から意見を求められたのではなく、自ら行財政改革で、ひとつの案を示している。これが市長からの諮問があり、答申があったという話だと厳しいものだが、今回は違う。

委員：本提言は、短期間にまとめられてしまい、各関係機関の意見を取り入れていない。

委員：諮問されたわけではなく、あくまで提言だ。時間的な制限もあり、短期間にまとめる必要があった。公民館を主にして地域のコミュニティセンターは出来ている。

委員：今学校教育を考えても、学校だけで子ども達を育てることは無理がある。地

域に開かれた学校づくりと、地域の連携ということが叫ばれている。今までの社会教育・生涯学習のあり方、そこに位置する公民館がこのままでいいのかどうか、問題提起はある。新上田市が一体になるチャンスと思い、市民が関心を持って十分に意見を出し合いながら、どういうものがあるのか考えていく場が出来るといい。多くの様々な方たちが関心を持つことにより中身の充実が図れると思う。

事務局：今回の提言を受けて、職員でも公民館をしっかりと考え直そうという話がある。そのような総括も必要ではないか。非常に少子化が進んできており、これから公民館そのものも館長会や主事会などでしっかり再確認していきたいと思う。

会長：来月の9日に中央公民館で「市民による社会教育のあり方について」という組織団体を立ち上げようというご案内が出ているようだ。ご関心のある方は参加して、市民としての意見を出していただければと思う。

#### (4) その他

- ・まちづくり講演会開催について 他

#### 4 連絡事項等

次回会議開催について

平成 22 年 8 月 26 日（木） 開催予定

閉 会